府民と看護をつなぐ

# テアテ vol.20

公益社団法人
大阪府看護協会

## 私が看護を 続ける 理由

3 宿泊療養対応看護師

4 産科病棟助産師

5 高齢者施設看護師

6 病棟看護師

## 私が看護を 選んだ 理由

7 看護大学生

7 看護専門学校生

8 看護師1年目

8 訪問看護師2年目

## 私が看護に 復帰した 理由

9 学校看護師

10 ワクチン接種対応看護師

写真：
大阪府看護協会が大阪府から委託を受け派遣している、宿泊療養施設・大阪コロナ重症センター・検体採取外来・ワクチン接種会場で働く看護師たち

# コロナ禍で見つけた“看護の魅力”

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大から2年。
看護の仕事への期待が高まる中、
今日も大阪のあらゆる場所で看護職たちが活躍しています。

厳しい状況の中、なぜ
看護を続けられるのか、
看護の道を選んだのか、
看護の仕事に復帰したのか。

現場の声を通して、看護の魅力をお伝えします。

## 私たちが人々の命・くらしを守ります。

私が看護を **続ける** 理由

## 宿泊療養対応看護師

大阪府宿泊療養施設
篠原 菜摘さん

看護師歴 9年

### 声で伝わる看護

「今寝ていましたか、夜は眠れなかったですか」と私は患者さんに問いかけました。

電話越しの声を聴き、体調を想像します。コロナ宿泊療養ホテルでの日々は、電話でのやり取りが基本となっていました。「全然眠れてないです」ぼそっと返答されるその声には張りがなく、息切れしているようにも聞こえました。詳しく聞こうとしましたが、質問に対する返答が曖昧でうまく伝わっているのか分からない。お会いしたこともなく、電話越しに声を聞き基礎疾患やデータを見ながら判断し、酸素飽和度の数値は90台後半と問題ありませんでしたが、午前中にスタッフ間で情報共有を行い、注意して観察していました。

夕方、再度電話すると「大丈夫です」と午前中に比べ活気がありました。夜間に一度も電話はなく、翌朝気になっていたため電話をしましたが、熱は続いており、「しんどいですね、酸素の値が94%です」と体位調整してもらい測定していただくが、数値は上がらず。医師へ報告し、在宅酸素導入となり、すぐに救急搬送の準備をしました。その時初めてその男性と顔をあわせ、「昨日から心配してくれてたの君だよね？しんどかったけど、昨日は寝れたよ。ありがとう」と防護服を着ていた私に声をかけてくれました。

電話で声だけのやり取りと、防護服を着て声をかける私。声だけのやり取りですが、伝わるものがあります。表情や態度も大事ですが、言葉遣いや声のトーンの大切さを改めて感じた瞬間でした。



### いのちの誕生は奇跡の連続

「出産は命がけですね。出産して赤ちゃんと一緒に過ごせることが当たり前ではないと実感しました」これは私が担当させていただいた患者Aさんの言葉です。Aさんはお産の時に大量出血となり、産後しばらく集中治療室での管理となりました。集中治療室ではたくさんの点滴やモニターが装着され、育児はもちろん赤ちゃんに会うこともできない状況でした。私が赤ちゃんの写真を持って訪床すると「自分でできないことが多すぎて辛い。赤ちゃんに対して何もしてあげられないのが申し訳ない」と話をされました。そこで私は時間を見つけて集中治療室へ訪床し、日々状態が回復していく様子を共に喜びました。また、毎日少しずつ成長している赤ちゃんのことをお伝えし、精神的なサポートができるよう努めました。産科病棟に戻られてからは赤ちゃんと一緒に過ごすようになり、母児共に退院されました。半年ほど経った頃にAさんから大きくなった赤ちゃんの写真と退院後の様子が記された手紙をいただき、とてもうれしく思いました。

私はこれまでにも多くのお産の担当をさせていただき、今後も助産師として働いていく上で様々な経験をすると思います。助産師は患者さんにとって一生思い出に残る大切なお産の場面を共有させていただく仕事です。今回のAさんとの関わりを通し、より強く「出産は奇跡の連続である」と実感しました。そのような奇跡の現場に立ち会わせてもらっている助産師という職業に誇りをもち、患者さんにとって出産が素晴らしいものとして捉えられるよう日々努力していきたいと思います。

私が看護を **続ける** 理由

助産師歴 4年

## 産科病棟助産師

大阪医科薬科大学病院
島津 初美さん

私が看護を続ける理由

看護師歴 4年

## 高齢者施設看護師

介護老人保健施設きんもくせい
俵谷 朋さん

### 利用者さんが笑顔になれるような看護を

急性期病院から介護老人保健施設に異動して１年が経過しました。ここでは病院とは違い、夜勤看護師は一人です。利用者さんの状態に急変があった時、その時の状況から判断し、対応しないといけないため、自分にできるだろうかと不安になり辛くなることもあります。その反面、高齢者施設で働く魅力も沢山あります。例えば、利用者さんと会話をしていると、今までの人生の話を聞くことができます。入浴介助ではゆっくりと湯船に浸かってもらい、「気持ち良かった」と笑顔でお風呂から出ていく姿をみると、とてもうれしくなります。

また、利用者さんと会話をしながら爪切りをするのも大好きです。パチパチ音を立てて切っていると、「ねえちゃんこっちも」「こっちもお願いね」「はい、順番に伺います」となんだか沢山声がかかります。爪を切る時、手を触った時に、太い指、細い手、分厚い手、リウマチや拘縮で曲がった指、当たり前のことですが一人ひとり違います。切りながらその方の人生の武勇伝を聞き、背景を知ることができるので、時間がある時は爪切りをしています。

もう一つ印象に残っているのは施設での看取りです。徐々に食事が摂取できなくなり全身状態が悪化し、呼吸状態も不安定になってくる方に、ご家族とゆっくり過ごしてもらう時間を提供したり、多職種でカンファレンスを行い、その方とどう関わっていくのかを話し合い、利用者さんやご家族の想いに寄り添える看護や介護ができた時は、高齢者施設で働いて良かったと思えます。

これからも利用者さんが笑顔になれるような看護をしていきたいと思います。



私が看護を続ける理由

看護師歴 12年

## 病棟看護師

市立柏原病院
桝田 祥代さん

### 看護を続ける私の原点

コロナで緊急事態宣言が出てから、「お母さんは何で看護師さんなの？」と子供によく聞かれるようになりました。私が看護師になると決めたのは、中学生の頃でした。母に「資格は一生ものだから、人の役に立てる仕事に就きなさい」と言われ、何となく看護科のある高校へ進学しました。進学した時に周囲は、高い理想や目標を持っている友達ばかりでした。そんな中で「私は看護師になっていいのか？」と思いながら看護師になり、看護師になってからもずっと「私は看護師をしていてもいいのだろうか？」と考え続けていました。

そんなある日、患者さんとリハビリのために歩行練習を促して、なんとか病棟を１周歩行することができた時「この年齢になっても七転び八起きやなぁ。看護師さんも大変な仕事やけど一生ものの仕事やし、だるまみたいになりや」と言われました。それまで出会った人達は、大変な仕事であることぐらいしか言われなかったので、私はこの仕事を選んで間違いなかったと初めて思えた瞬間でした。それと同時に、この仕事について自問自答することで、知らず知らずのうちにだるまのように起き上がっていたのかもしれないと感じたのです。

このコロナ禍で、世界的にも大きな不安やストレスが蓄積されて皆が日々を耐えています。人の役に立てて、一生ものの仕事であるという使命感から、今も看護師として続けられています。私の様に、理想や目標がなくてもいいと思います。ただ、自分の原点となった「人の役に立てる、一生続けられる仕事」という思いを子供にしっかりと伝えることが大切なのだと思います。

## 届いていた声

**伊東 海音さん**　美原看護専門学校 3年生

臨地実習で受け持った患者さんは意識障害があり、誰の反応にも応じず眠っているようでした。私の声が聞こえているのか不安でしたが、患者さんの手を握りながら色んなことを話しかけ続けました。

何度か話しかけているうちに、反応のなかった患者さんが私の問いかけに対しわずかに手を握り返してくるようになりました。意識状態が回復してきたとき、患者さんが微笑み、声をふり絞りながら「いつもありがとうね」と私の手を強く握りしめました。患者さんに届くことを願っていた私の声と手はしっかり届いていたのだと「患者に寄り添う」という看護の力を感じた瞬間でした。

患者さんの傍へいき、不安や苦痛などの訴えに耳を傾けることは、多様な看護の中のごく一部に過ぎないのかもしれません。しかし、その行動が少しでも患者さんに安心を与え、病気の回復、あるいは希望に繋がると信じています。

患者さんにとって看護師は一番身近な存在であるからこそ、患者さんの心に寄り添うことを忘れず、「あなたがいて良かった」そう思ってもらえるような看護師になりたいと思います。

### 看護専門学校生

私が看護を選んだ理由

## 心で向き合う看護を

**薮田 陽子さん**　藍野大学 3回生

私は「患者様の表出できてない言葉にも耳を傾け、心で向き合っていく看護師」を目指しています。私は幼い頃から入退院を繰り返していました。入院中に母が不在の時、寂しく思っていた私を看護師の方が抱きしめて安心できるように関わってくださいました。その時、看護は病気に対する身体的なケアだけでなく、心のケアも行う大切な役割があることを感じました。

私は病気と闘いながら生活を送っている患者様やそのご家族は心の負担も大きいと考えています。そのため、患者様と向き合う際には患者様の表情や言葉から思いを理解して、受け止め、医療者としてだけではなく「人」としての立場を忘れずに接していきたいです。「人の心」を理解した上で一人ひとりに合った個別性の看護を提供することができるようになりたいと思います。コロナ禍においてご家族との面会も制限されていることで不安や孤独感を感じていらっしゃる患者様の安心できる存在になりたいです。

### 看護大学生

私が看護を選んだ理由

## その人が自分らしく生きるために、一緒に考える

**牟田 成孝さん**　シャローム 訪問看護ステーション

看護師を目指すきっかけは家族の勧めでした。自分の意思ではなかったため、大学の1、2回生の時はやめようと考えたこともありました。看護師のイメージは、治療が最優先。看護師が患者さんに「〜してください」「〜しないでください」と、指導することが多い印象。私自身も、その人らしさが見えてこず、疾患のことばかりを勉強していました。

私が実習で指導を受けた訪問看護師の方は、その人が自分らしく生きるために、一緒に考える。訪問看護師と利用者さんが同調している姿に心をうたれ、その時から訪問看護師を志しました。

私はターミナルケア（終末期ケア）、点滴、持続的導尿（バルーンカテーテル）の交換などの技術面で大きな壁にあたり、病棟看護師に比べ習得に時間がかかりましたが、訪問を通してのご家族とのコミュニケーション、その人に寄り添う看護を肌で感じ、経験を積んで学べています。今後も自分が理想とする「支える看護」を目指し、精進していきたいと思います。

### 訪問看護師 2年目

私が看護を選んだ理由

### 看護師 1年目

私が看護を選んだ理由

## 「聴く力」を自身の強みに

**上野 桃さん**　地方独立行政法人 市立吹田市民病院

就職して9か月が経過しました。看護師としてコミュニケーションの大切さを実感していますが、私は自ら話しかける事や自分の考えや思いを伝える事、笑顔で接する事も得意な方ではありません。だからこそ、患者さんの話は遮ることなく最後まで丁寧に伺うよう意識しています。

緊張で上手く話すことができないと不安を抱きながら、長期入院でコロナ禍による面会や行動制限からストレスを感じている患者さんを担当しました。趣味の話に耳を傾けていると「あなたは人の話をよく聞いてくれるから」と、今の思いや退院後の希望を語ってくださいました。

他の患者さんからも「お願いしやすいから聞いてみようと思った」などの言葉をいただく事もあり、看護師として信頼してもらえたと実感できる瞬間があります。

これからも患者さんの心の声に耳を傾け、思いを打ち明けて下さった際にはしっかりと受け止める事ができる看護師になることが今の目標であり、「聴く力」を自身の強みとしていけるよう頑張っていきたいと思います。

ブランク
10年

私が看護に復帰した理由

## 学校看護師

大阪府立箕面支援学校　宮下 由美さん

### 医療的ケア児の豊かな学校生活を見守る存在に

出産を機に勤めていた病院を退職し、その後家庭に入っていた私が「学校看護師」という仕事を知ったのは、子供が通う小学校からの1通のおたよりでの募集でした。勤務時間も子供たちが学校に通っている時間帯で、いずれまた看護師として働きたいと思っていたため、なにかお役に立てればと思い応募しました。

10年のブランクがあったため、当初は不安もありましたが、先輩看護師や保護者の方のサポートのおかげで地域の小学校で1年、支援学校で9年勤めています。

学校看護師は、学校教員と連携しながら医療的ケアが必要な子供たちに対して「たんの吸入」や「経管栄養」などの医療的ケアを行います。

現在、大阪府立箕面支援学校は63名の医療的ケアを必要とする児童生徒に対し13人の看護師と、研修を受け医療的ケアのできる教員が連携し、チームとなって取り組んでいます。

小学部1年生から高等部3年生までの12年間、長期間にわたって子供たちと関わることができるので、最初は喜怒哀楽が分かりにくい子も毎日関わりをもつことで「こういうことで喜んでくれるのかな？」「これがラクなのかな？」と少しずつわかるようになっていきます。年間を通して行事が行われるのですが、小学生の時はドキドキしていた子が、中学生になると堂々と演技するようになり、頑張っている姿をそばで見守りながら私自身も笑顔と元気をもらっています。毎年成長していく子供たちの姿はドラマチックでパワーがあり、とても愛おしく感じます。

支援学校は病院のように治療を目的とする場ではなく、子供たちが豊かな学校生活をおくれるように支え、成長を見守ることができる前向きな日々の中に看護があります。私はそんな学校看護師という仕事にとてもやりがいを感じています。



### 多くの人に支えられた復帰の第一歩

出産を機に医療現場を離れて8年。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、大阪にも緊急事態宣言が発令される中、看護師の自分にもできることはないかと看護協会のホームページを開いたところ、ワクチン接種講習会が行われていることを知り参加しました。

事前に学生時代の参考書を開いて久々に看護技術の勉強をし、講習会ではCOVID-19やワクチン接種の知識や技術を学び、上腕模型を使用した接種の練習もさせていただきました。8年ぶりに注射器を持つ手は緊張で震え、私だけが正しい部位に筋肉注射ができませんでした。悔しさのあまり時間ギリギリまで協会の方から指導を受けましたが、看護師にはもう戻れないかもしれないという不安に駆られ、ワクチン集団接種が開始された当初は勤務希望を出せませんでした。

自宅で鉛筆やお箸を使い筋肉注射の手技練習をし、血管迷走神経反射、アナフィラキシーショックなどについて復習していた2021年7月末、協会からの「業務に就きませんか」という電話に、一度だけ勤務してみることにしました。

初めて勤務した日は不安と緊張でいっぱいでしたが、他の看護師の励ましの言葉や分からない時はすぐに教えてもらえたことで、帰りの電車の中では頑張れそうという気持ちに変わりました。勤務を重ねるごとに、安心して会場を後にする被接種者の方や会場の医師、マネージャーからお褒めの言葉をいただき、徐々に自信が持てるようになりました。

一度は諦めかけていた看護師復帰。背中を押して下さった方々への感謝の気持ちを忘れずに、今後は看護師として困っている方々を手助けしていきたいと思っています。

私が看護に復帰した理由

ブランク
8年

## ワクチン接種対応看護師

大阪府ワクチン接種会場
峠本 みきさん

# 看護への道 看護職になるには

看護を学べる学校には、大学、短期大学、看護専門学校等、様々な種類があり、
修業年限やカリキュラム等の特色も異なります。
看護師になるためには、国家試験に合格する必要があります。就職して現場経験を積んだ後、
専門看護師や認定看護師など、さらに専門性の高い資格の取得を目指せます。

## 看護師への進路

- 高等学校を卒業 → 看護大学 4年(※1)
- 高等学校を卒業 → 看護短期大学 3年
- 高等学校を卒業 → 看護師養成所（看護専門学校など）3年または4年
- 中学校を卒業 → 5年一貫看護師養成課程校

→ 看護師国家試験 → 看護師

ここがポイント！ 看護・医療の基本的な技術を学ぶだけでなく、思考力や洞察力、コミュニケーション能力などを身につけることが大切です。

**保健師・助産師になるには、看護師国家試験に合格している必要があります**

## 保健師への進路

- 看護系大学院 2年
- 看護大学 4年(※1)
- 看護短期大学専攻科 1年
- 保健師養成所 1年

→ 保健師国家試験 → 保健師

## 助産師への進路

- 看護系大学院 2年
- 看護大学専攻科・別科(※2) 1年
- 看護大学 4年(※1)
- 看護短期大学専攻科 1年
- 助産師養成所 1年

→ 助産師国家試験 → 助産師

※1　保健師・助産師の教育プログラムがある大学では、看護師に加えて保健師・助産師の国家試験受験資格を得ることができます。
※2　大学専攻科の入学資格は、大学卒業者です。

『出典：日本看護協会 やっぱり看護のシゴト 2021年4月改訂 より』

テアテ vol.20

発行日／令和4年3月1日　発行人／高橋 弘枝　編集・発行所／公益社団法人 大阪府看護協会
〒540-0001 大阪市中央区城見2丁目2番22号 マルイトOBPビル8階
TEL. 06-6947-6900　FAX. 06-6947-6901　http://www.osaka-kangokyokai.or.jp